

【構想の名称】(タイプB-I)

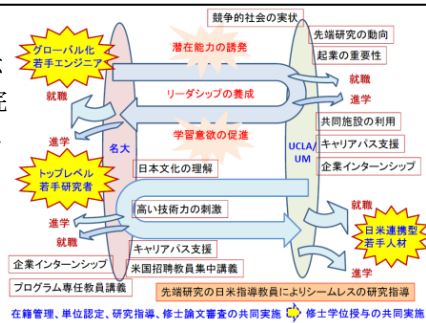
修士課程国際共同大学院の創成を目指す先駆的日米協働教育プログラム

【構想の概要】

本プログラムは、修士課程国際共同大学院の創成を目指し、名古屋大学大学院工学研究科と米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)、ミシガン大学大学院工学研究科が国際協働教育を実施することにより、2ヶ月間の短期コース、6ヶ月間の中期コース、12ヶ月間の長期コース及び定期ワークショップを日米の両地で同時に実施する国際・学際教育プログラムを新たに構築するとともに、毎年40~50名の大学院修士課程の学生を相互派遣する。さらに、本プログラムの実施を通して、新たな学びスタイルを確立するとともに国際共同大学院の創成基礎を構築し、我が国の大学教育活動の発展および国際競争力の強化に大いに貢献する。

■ プログラムの目的・養成する人材像

我が国の持続的発展を遂げるため、大学の国際化を推進し、世界を見据えたグローバルな修士課程学生の育成は極めて重要である。本プログラムは、我が国の工科大学院の修士課程学生に国際的なレベルの高い教育に接する機会を与えて、英語力の増強や研究意欲の向上、世界的な視点からの研究課題の提案力の養成を実現する。また、学生の進路希望に応じて、フレキシブルかつ新たな国際履修モデルを提案することにより、修業年限、就職活動、進学準備に影響を与えることなく、世界展開力を備えた若手研究者・技術者の育成を実現する。



■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成

本プログラムの実施は、日本の「ものづくり」の中心に立地する名古屋大学の特長を活かして、UCLA及びミシガン大学との緊密な連携により、共同プログラム内の大学間の単位の相互認定を実現すると共に、成績管理、学位授与の共同実施を図る。また、本プログラムの実施を通して日米両方の各研究チーム間の共同研究を促進し、各分野の世界に発信できる先端研究拠点を形成する。

○ 短期交流コース

派遣: 2ヶ月間派遣し、UCLA、ミシガン大学の各専門分野の教授陣および名古屋大学派遣教員による特別集中講義および英語力養成授業を受け、相互認定可能な6単位を取得する。

受入: 2ヶ月間受入れ、取得できる6単位を相互的に認定する。工学研究科の各専門分野の研究第一線で活躍している研究者を結集し、UCLA、ミシガン大学からの招聘教員を加え、英語による大学院特別集中講義を実施する。

○ 中期交流コース

派遣: 6ヶ月間UCLA、ミシガン大学に派遣し、相互認定可能な10単位を取得する。両校の教授陣による授業、共同施設の利用など米国の特色ある充実した教育支援を受ける。

受入: 6ヶ月間受入れ、セミナー単位の取得や名古屋大学の教授陣による研究指導、研究施設の共同利用など、名古屋大学の特色ある充実した研究支援を受ける。

○ 長期交流コース

派遣: 12ヶ月間UCLA、ミシガン大学に派遣し、必要な4つのセミナー単位の取得、研究施設の共同利用、キャリアパス支援など、米国の特色ある充実した研究支援を受ける。共同修士論文審査会を開催し、研究指導および単位の認定を行う。

受入: 12ヶ月間受入れ、セミナー単位の取得や日米両校の教授陣による研究指導、研究施設の共同利用、キャリアパス支援など、名古屋大学の特色ある充実した研究支援を受ける。共同修士論文審査会を開催し、研究指導および単位の認定を行う。



■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ 遠隔国際教育の充実

本プログラムでは、より多くの修士課程学生が大学教育の国際化の魅力を感じ体験できるため、ICTを駆使した遠隔国際教育を充実することにより、実施大学の学生だけではなく、他大学の学生も本プログラムへの参加を可能にする。

○ プログラムの成果の公開

本プログラムの成果についても積極的に公開する。特にプログラムの活動状況や随時行われる海外の著名な講師の講義・講演内容について、随時ビデオライブラリーなどを作成し、内外から広くウェブアクセスできるようにする。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ **派遣:** 留学中の日本人学生が学業に専念できるように、バックアップを受ける現地サポート体制をプログラムを通して確立する。日本側からも留学に必要な情報提供やインターネットを通じた相談窓口をさらに充実させ、万全な体制を整備する。

○ **受入:** 指導教員の配置、教育支援員・TA等の配置、履修指導、学内外での諸手続き支援、カウンセリング、学内各種資料の翻訳、宿舎の借り上げ、就職支援などの支援体制を整備する。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ **日本人学生の派遣:** 5年間継続で本プログラムを推進することにより、短期・中期・長期交流コース及び定期ワークショップを実施することで、計233名の日本人学生を派遣する。

○ **外国人留学生の受入れ:** 5年間継続で本プログラムを推進することにより、短期・中期・長期交流コース及び定期ワークショップを実施することで、計146名の外国人留学生を受け入れる。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	25	46	47	55	60
学生の受入	0	29	32	40	45